

【トッパーリーダーセミナー】

大学教育改革の力学

田中 岳（岡山大学 副学長／教学企画室 教授）

講師略歴

大学卒業後、会社勤務等を経て、1994年4月から京都精華大学職員。事務職員として教学現場の経験を積み、教育推進センターでは学長のもと特色 GP 採択等の教育改革を展開する。2004年度より名古屋大学大学院教育発達科学研究科に進学、高等教育マネジメントを専攻。2009年3月同研究科博士後期(Ed.D)課程単位取得退学。2008年4月九州大学教育改革企画支援室准教授、教育担当の理事・副学長を支援する。2012年10月同大学基幹教育院教育企画開発部准教授、2014年度スタートの新たな初年次カリキュラム「基幹教育」の開発・マネジメントを担う。また文部科学省の補助を受け、Q-Links（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク）を主宰した。2016年4月東京工業大学教育革新センター教授、新設された同センターの活動構築を通じ教育改革の実行支援と質向上の仕組みづくりを推進する。2021年4月から岡山大学副学長。入試改革と教育改革を中心に活動中。

プログラム概要

積み上げた検討が崩れたり、鶴の一声で事態が進んだり、大学における教育改革は思いもよらないことの連続です。とはいえ、いくらかの経験によって、先読みもできるようになります。

大学のカリキュラムや学生の学びをどう見立てるか、チームや組織を奮い立たせるファシリテーションはどのようなものか、行く末をどのように予見してみるか等により、大学教育改革を立体的に捉え、この複雑な立体構造を動かすレバレッジ・ポイント（てこの作用点のように大きな変化を小さな力で起こせる点）を見つけ出すことが、教育改革の推進では求められます。1987年刊行の訳書『大学教育改革のダイナミクスーカリキュラムをいかに変革するか』で、著者ヘファリンの示した理論と実践は、今も色あせることのないものです。本プログラムでは、このヘファリンの示唆も参考に、講師の経験知を供することで、参加の皆さんが課題発見と解決を考えることに貢献したいと考えています。

準備物・事前課題

特になし

主な受講対象者

- ・大学等で教育改革・教育改善に携わっている（携わってきた）方
 - ・大学等で教育改革・教育改善を進める知恵について考えてみたい方
- ※最前線で格闘されている教職員の御参加も歓迎です。明日すぐ役立つ処方箋というよりも、俯瞰的な話題提供を想定していますので、御承知おきください。

到達目標

1. 大学のカリキュラムや学生の学びの見立て方を説明することができる。
2. チームや組織を動かすファシリテーションについて言語化できる。
3. 将来を予見する技法と手順を解説することができる。
4. 1～3を総合的に捉えて、自身の課題を実際に動かすイメージができる。